

## お茶の水女子大学ライフワールド・ウオッチセンター(LWWC)増田研究室

お茶の水女子大学ライフワールド・ウオッチセンター増田研究室  
阿南忠明、中嶋稚子、窪田葉子

### 1. 機関の紹介と教育活動の趣旨

お茶の水女子大学は、1875(明治8年)に東京女子師範学校として開校し、東京都文京区に位置し、現在は学部・大学院合わせて3200人超の学生・院生と附属学校園を合わせて約500名の教職員がいます。

ライフワールド・ウオッチセンターは、生活の安全や環境に関する教育体系の調査・研究・開発を行いながら、人材育成や教養教育を実践し、もって安全で安心な生活世界を構築することを目的として2003年に設立されました。増田研究室は「互学互教」の精神の下、現場基点を旗印に、専門機関・シンクタンク、学会・大学、行政・地方自治体、産業界、報道機関、NGO・NPOなど幅広い諸機関と連携し、また内外の多様な分野で活躍する多くの人々の協力を得て情報の集積・発信の拠点として機能していくことを目指しています。そして「産学連携」を超えた「社会学連携」を目指して、生命、生物、生活、人生、生存の5つの視点から現代社会を検証すべく調査研究活動を進めるとともに、現代社会をより良く理解するための教育活動を推進しています。

増田研究室は、知の市場の事務局機能に加えて、2つの学会の事務局の機能も果たしています。すなわち化学物質及び生物の総合管理に関する学術と教育の発展を図り、もって産業と社会の健全な進歩および生活と文化の向上に寄与することを目的として2004年1月に設立された化学生物総合管理学会 (<http://www.cbims.net/>)、及び科学・技術と生活・産業・社会の相互関係を学際的に捉えることにより、技術革新と社会変革に係わる諸課題を現場基点の視点から調査研究して、産業と社会の発展に寄与することを目的として2006年6月に設立された社会技術革新学会 (<http://www.s-innovation.org/>) です。この2つの学会は、「知の市場」の理念を共有し、受講者や講師に実社会に根ざした学術発表や論文投稿の機会を提供するとともに自己研鑽と自己実現を深化するために研究会などの場を提供する知の市場の連携学会でもあります。

### 2. 「知の市場」への参加の経緯

「化学・生物総合管理の再教育講座」の創始者として、2004～2007年度の全科目、2008年度は化学生物総合管理Uの23科目、5年間で合計207科目を開催してきました。また、「知の市場」の基本方針として、1) 総合的な学習機会を提供するとともに実践的な学習機会を提供する、2) 受講者が自己責任により自由に受講科目を選択できるように科目、講師など開講に関する情報を十分に提供とする、3) 強い学習動機と積極的な参加意思を有する学生・院生を含む広範な分野の多様な社会人受講者とする、4) 科目(90-120分授業15回2単位相当)を一つの単位として大学・大学院に準拠した厳しい成績評価を行い、優秀な成績を修めた受講者には受講修了証を交付する、といった原則を築いてきました。

また当分の間、知の市場事務局として、関係者の意見交換を促進し共通認識を深める機会を設けるとともに、「知の市場」の規範を策定しつつ広報などの共通課題に対処し、連携機関

や開講機関の活動、及び受講者や講師の活動の支援などをおこなうこととしています。現在は 2009 年度の開講に向けて標準書式や規定類の提供、シラバスの作成や講師との調整の手段、「知の市場」HP の維持管理や「知の市場」としての広報などをおこなっています。

### 3. 2009 年度開講科目の紹介

開講機関のひとつとして増田研究室では、2009 年度には下記の合計 4 科目を開講します。

CT451 金融と環境特論：「金融とリスク」～持続可能な経済社会の発展を如何に支えるか～は、経済活動全般を支える「金融」の視点から、「金融」活動が経済社会に及ぼす影響とリスクについて解説すると共に、「持続的な経済社会の発展」に向けた「金融」の役割について論じる科目です。持続可能な発展に向けた投資の動向と展開、金融機関の視点から見た不動産と環境問題、金融のしくみを活用した社会への貢献、企業の内部統制とリスク管理などについての講義がおこなわれます。

CT302 科学と社会事例研究：サイエンス・ワールド・トークは、現代社会をよりよく理解するため、科学や技術そして社会や世界におこる諸々の事柄について、多様な視点から論じる科目です。2009 年度は、病原体のヒトの身体の壊し方、医薬品の適正使用、科学を産業に転化する材料メーカーの挑戦、不法投棄等の原状回復支援事業、農業の重要性と食糧自給率、日本の畜産の現状と今後のあり方など、化学発がん研究の系譜とがん哲学、科学の常識と非常識、JCO 事故と危機管理、鳥インフルエンザとリスクコミュニケーション、有機ヒ素中毒の解明と初動対策、新型インフルエンザへの対応、組み換え食物の安全性議論、日本の競争的資金制度の現状と今後のあり方についての講義がおこなわれます。

CT442 医薬品情報特論：医療消費者のための医薬品の基礎知識から情報リテラシーの向上までは、医薬品情報を適正に使用し評価するために必要な基礎的知識を、実例を交えながら紹介し、医薬品情報リテラシーの向上を目指し、情報のあり方を考察する科目です。医薬品（開発と情報、名称・分類・種類、体内動態、副作用とその考え方、妊婦・授乳婦、小児等への使用等）、医薬品情報（情報源、データベース、ガイドライン等）、さらにはコミュニケーションなどについての講義がおこなわれます。

CT123 ナノ・アスベスト事例研究：アスベストとナノ材料のリスク管理の比較研究は、日本社会の最大の災禍のひとつとして将来にわたって大きな課題となりつつあり化学物質による諸々のリスクの管理を考えるうえで重要なアスベストと、現在情勢が急速に進展しており国内外においてリスクの評価や管理のあり方に関する論議も高まりつつあるナノ材料について、それぞれの内外の動向を紹介し、相互に比較し検証しながら今後のあり方を論じる科目です。アスベストのリスク評価と管理、ナノ材料と社会、ナノ材料のリスク評価と管理などについての講義がおこなわれます。

前期開講の科目 CT302,CT451 については 2009 年 1 月 5 日から募集受付を開始し、2 月 13 日現在 45 名の応募を受領しています。

### 4. その他、抱負など

「知の市場」の中でもインキュベーション機能を持つ開講機関として、世界の NGO の活動や、途上国の各国事情など、より広範で総合的な科目を新規に開拓して開講できるよう、努めていく予定です。

## 知の市場の新展開 化学・生物総合管理の再教育講座 シンポジウム2009.3.2

開講機関報告6  
お茶の水女子大学  
ライフワールド・ウオッチセンター  
増田研究室

## 活動の紹介:増田研究室

- 化学・生物総合管理の再教育講座の創始
- 知の市場の事務局
- 知の市場の開講機関・連携機関
- 2つの連携学会の事務局
  - 化学生物総合管理学会 <http://www.cbims.net/>
  - 社会技術革新学会 <http://www.s-innovation.org/>

2009.3.2

知の市場 シンポジウム

4

## 機関の紹介: ライフワールドウオッチセンター

- 設立:2003年
- 目的:
  - 安全で安心な生活世界を構築すること
- 活動:
  - 生活の安全や環境に関する教育体系の調査・研究・開発
  - 人材育成や教養教育の実践

2009.3.2

知の市場 シンポジウム

2

## 連携学会

- 「知の市場」の理念を共有
- 受講者や講師に実社会に根ざした学術発表や論文投稿の機会を提供
- 自己研鑽と自己実現を深化するために研究会などの場を提供
- 化学生物総合管理学会:設立2004年1月
  - 化学物質及び生物の総合管理に関する学術と教育の発展を図り、もって産業と社会の健全な進歩および生活と文化の向上に寄与すること
- 社会技術革新学会:設立2006年6月
  - 科学・技術と生活・産業・社会の相互関係を学際的に捉えることにより、技術革新と社会変革に係わる諸課題を現場基点の視点から調査研究して、産業と社会の発展に寄与すること

2009.3.2

知の市場 シンポジウム

5

## 機関の紹介:増田研究室

- 目標:
  - 実社会に根ざした「知の世界」の構築
- 方針:
  - 社会学連携
    - 産学連携を超えた専門機関・シンクタンク、学会・大学、行政・地方自治体、産業界、報道機関、NGO・NPOなど幅広い諸機関、内外の多様な分野で活躍する多くの人々との連携
  - 互学互教
    - 自主的、自律的、自立的で解放的な協力関係
  - 現場基点
    - 社会の諸々の活動の現場での経験を活かし、逆にそれらの活動に資する拠点

2009.3.2

知の市場 シンポジウム

3

## 「知の市場」への参加の経緯

- 2004～2008年度の化学・生物総合管理の再教育講座の全221科目中、2004～2007年度の全科目、2008年度は化学生物総合管理Uの23科目、5年間で合計207科目を開催。
- 2008年度から知の市場事務局として活動

2009.3.2

知の市場 シンポジウム

6

## 知の市場事務局の活動 1

- 関係者の意見交換を促進し共通認識を深める機会を設ける
  - － 協議会(推進委員会)
  - － 評価委員会
- 連携機関や開講機関の活動、及び受講者や講師の活動の支援
  - － シラバスの作成や講師との調整
  - － 調査・分析・提言

2009.3.2

知の市場 シンポジウム

7

## 2009年度開講科目の紹介 1-1

- CT302 科学と社会事例研究：  
サイエンス・ワールド・トーク
  - － 現代社会をよりよく理解するため、科学や技術、社会や世界におこる諸々の事柄について、多様な視点から論じる科目
  - － 普段、社会が受信する機会の少ないトピックや、社会活動や研究の第一線の現場からの報告など

2009.3.2

知の市場 シンポジウム

10

## 知の市場事務局の活動 2

- 「知の市場」の規範を策定
  - － 標準書式や規定類の提供
- 広報などの共通課題に対処
  - － 「知の市場」HPの維持管理
  - － 「知の市場」としての広報

2009.3.2

知の市場 シンポジウム

8

## 2009年度開講科目の紹介 1-2

- CT302 科学と社会事例研究：  
サイエンス・ワールド・トーク
  - － 病原体のヒトの身体の壊し方、
  - － 医薬品の適正使用、
  - － 科学を産業に転化する材料メーカーの挑戦、
  - － 不法投棄等の原状回復支援事業、
  - － 農業の重要性と食糧自給率、
  - － 日本の畜産の現状と今後のあり方など、
  - － 化学発がん研究の系譜とがん哲学、

2009.3.2

知の市場 シンポジウム

11

## 開講機関としての活動

- 2009年度は4科目を開講予定
- 前期
  - － CT302 科学と社会事例研究：  
サイエンス・ワールド・トーク
  - － CT451 金融と環境特論：「金融とリスク」  
～持続可能な経済社会の発展を如何に支えるか～
- 後期
  - － CT123 ナノ・アスベスト事例研究：  
アスベストとナノ材料のリスク管理の比較研究
  - － CT442 医薬品情報特論：医療消費者のための  
医薬品の基礎知識から情報リテラシーの向上まで

2009.3.2

知の市場 シンポジウム

9

## 2009年度開講科目の紹介 1-3

- CT302 科学と社会事例研究：  
サイエンス・ワールド・トーク
  - － 科学の常識と非常識、
  - － JCO事故と危機管理、
  - － 鳥インフルエンザとリスクコミュニケーション、
  - － 有機ヒ素中毒の解明と初動対策、
  - － 新型インフルエンザへの対応、
  - － 組み換え食物の安全性議論、
  - － 日本の競争的資金制度の現状と今後のあり方

2009.3.2

知の市場 シンポジウム

12

## 2009年度開講科目の紹介 2

- CT451 金融と環境特論:「金融とリスク」～持続可能な経済社会の発展を如何に支えるか～

－ 経済活動全般を支える「金融」の視点から、「金融」活動が経済社会に及ぼす影響とリスク、「持続的な経済社会の発展」に向けた「金融」の役割について解説し、論じる。

- ・ 持続可能な発展に向けた投資の動向と展開、
- ・ 金融機関の視点から見た不動産と環境問題、
- ・ 金融のしくみを活用した社会への貢献、
- ・ 企業の内部統制とリスク管理など

2009.3.2

知の市場 シンポジウム

13

## 2009年度開講科目の紹介 4

- CT442 医薬品情報特論:医療消費者のための医薬品の基礎知識から情報リテラシーの向上まで

－ 医薬品情報を適正に使用し評価するために必要な基礎的知識を、事例を交えながら紹介

－ 医薬品情報リテラシーの向上を目指し、情報のあり方を考察

- ・ 医薬品の基礎知識
- ・ 医薬品情報ソースと収集
- ・ 医薬品情報の評価
- ・ コミュニケーション

2009.3.2

知の市場 シンポジウム

16

## 2009年度開講科目の紹介 3-1

- CT123 ナノ・アスベスト事例研究:

アスベストとナノ材料のリスク管理の比較研究

－ アスベスト:

- ・ 日本社会の最大の災禍のひとつとして将来にわたって大きな課題となりつつある。
- ・ 化学物質による諸々のリスクの管理を考えるうえで重要。

－ ナノ材料:

- ・ 現在情勢が急速に進展
- ・ 国内外においてリスクの評価や管理のあり方に関する論議も高まりつつある

2009.3.2

知の市場 シンポジウム

14

## 抱負

- インキュベーション機能を持つ開講機関
- より広範で総合的な科目の新規開拓と開講
  - － 世界のNGOの活動
  - － 途上国の各国事情
  - － 世界のエネルギー、資源事情
  - － 世界の水事情、水戦略
  - － 科学リテラシー

2009.3.2

知の市場 シンポジウム

17

## 2009年度開講科目の紹介 3-2

- CT123 ナノ・アスベスト事例研究:

アスベストとナノ材料のリスク管理の比較研究

－ アスベストとナノ材料について、それぞれの内外の動向を紹介し、相互に比較し検証しながら今後のあり方を論じる

- ・ アスベストのリスク評価と管理、
- ・ ナノ材料と社会、
- ・ ナノ材料のリスク評価と管理など

2009.3.2

知の市場 シンポジウム

15